

輸出事業計画（GFPグローバル産地計画）

※申請者名：奈良県枝物輸出促進協議会、品目：切り花

1. 輸出における現状と課題

奈良県南部の中山間地域では、一年を通じて多種多様な枝物の生産が行われており、市場から「花木の百貨店」と呼ばれる関西有数の産地となっている。

切り花全般の国内需要が低迷する一方で、近年は海外需要（中国、香港、ベトナム等）が増加傾向にあり、品目によっては供給不足となっている。現段階では、海外需要は特定の品目（コウヤマキ、アセビ、サンシュユ、サクラ等）に限られているが、相手国のニーズを把握することで対象品目の拡大が期待できる。また、サクラなどの促成物では、年末から正月の高需要期においては国内出荷をメインとし、国内需要の落ち込む1～2月に海外の旧正月をターゲットに出荷することで、長期間の継続安定出荷が期待できる。

一方、産地では、生産者の高齢化や後継者不足の影響により、生産量が減少しつつある。需要に応じた定量を継続的に出荷するためには、効率的な生産体制の構築が必要と考えられる。

2. 輸出事業計画の取組内容

【生産】

山採り品目であるアセビの栽培化

- ・効率的増殖方法の検討
- ・事業活用によるモデル圃場設置

需要に応じた生産体制の構築

- ・輸出業者との連携による計画出荷
(サクラ等、促成花木)

【販売】

需要調査による輸出適品目の選定・商談での提案
産地のブランド化

- ・ホームページ、SNSなどを活用し、産地から情報発信を行う。

【流通】

輸送コストの削減

- ・輸送業者との調整（他品目との連携）
- ・関西国際空港経由の輸出拡大

品質保持

- ・長時間輸送に対応し、かつ低コストな前処理技術の導入検討



コウヤマキ



サンシ77

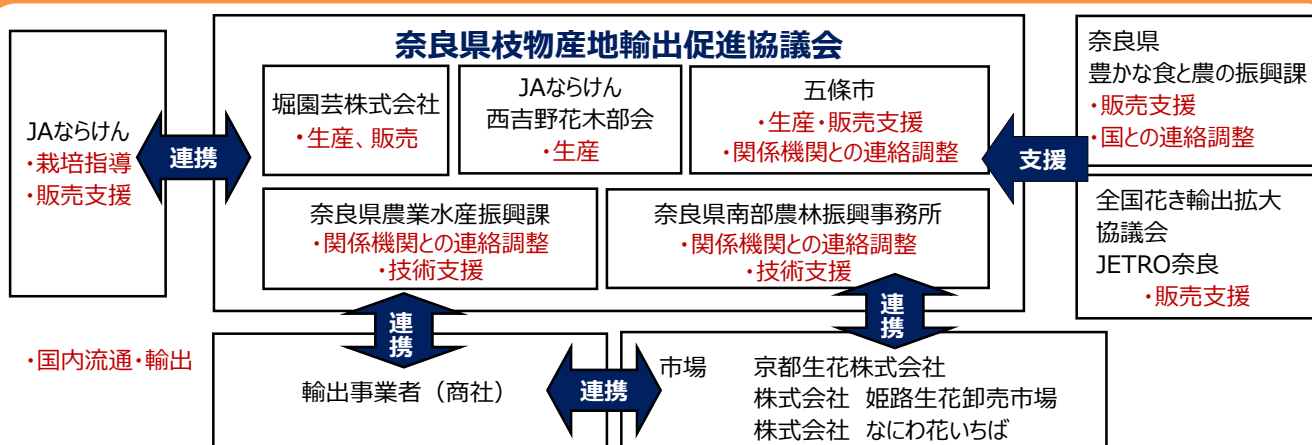


アセビ



ケイオウザクラ

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

輸出先国： 中国、ベトナム、北米、香港、台湾
 輸出品目： アセビ、コウヤマキ、サクラ類、サンシュユ他
 現在の輸出額： 500万円（令和2年度）
 目標輸出額： 1,410万円（令和7年度）